

巻頭言

さる年に思う

宮城県士会副会長 三浦幸一
第33回東北理学療法学会大会長

新年、あけましておめでとうございます。

昨年度は第33回東北理学療法学会の開催にあたりましては、士会員の皆様のご協力ありがとうございました。お陰様で、参加総数は740名を数え、大きなトラブルもなく、赤字も出さず、無事、成功裏に終えることができました。

今回大会長を経験して、感じたことは、組織図上頂点にいる立場ですが、むしろ準備委員一人一人との横のつながりをひしと感じた約2年間でした。準備委員を繋げているものってなんだろうかと考えた時、決して上下関係だけではなく、各々の準備委員が理学療法あるいは理学療法士の質の向上を目指すためには、何をしなければならぬか、自分の役割は何かを十分理解していたからこそ、多忙な日常業務の傍ら、私事を擲って準備委員として頑張ってくれたのだと思います。本当に皆努力を惜しまず、何か問題があればすぐに対処し、実行することができる。このフットワークの良さを見ると宮城県士会は本当に成長しているなと感じました。

さて、今年は申年です。さる者は追わずと言いますが(さる違いですけど)、過ぎ去った過去を振り返ることも時には大切、過去の積み重ねがあって今がある、これは失敗も成功も含めての事です。私も今思い出すだけでみぞおちの辺りがキュツとなる事柄がいくつもあります。常にチャレンジする事、結果がどうあれ、そこから学ぶことは必ずあるはず。「無駄なことは何もない」ということです。

最後に新年を迎え、皆様のご多幸をお祈りいたします。

第33回東北理学療法学会への ご協力ありがとうございました

第33回東北理学療法学会
準備委員長 藤野 隆喜

寒さ厳しい仙台の街を、熱気で染めるように盛り上がった第33回東北理学療法学会が、無事終了致しました。宮城県理学療法士会会員のみなさんのご協力のもと、参加者数700名を超えて盛況に開催されましたこと、準備委員会一同、厚く御礼申し上げます。

さて、今回の学会では、いくつかの新しい試みがなされました。一つはビギナー枠という演題登録です。これは今学会のテーマでもあります「育む」という視点で、演題発表の企画段階から査読者と創り上げていくというもの。もう一つは発表自体を予め動画で編集してしまう動画発表。さらに、各県での活動の取り組みを発表する県士会枠、地域枠の導入といった演題企画などがそれぞれです。募集から発表に至る過程での連絡・調整では学術担当者の方のご尽力に頭が下がる思いです。そして、なによりも東北ブロック協議会からの命で、今学会から抄録の電子化が行われたことは、準備委員会を大いに悩ませてくれました。情報の発信が電子媒体のみであることが、周知、集客にどのような影響を及ぼすのか分からないことが、非常に不安でした。ホームページやFAX、また個人的なフェイスブックなどを活用しての広報や電子版抄録の作製など、広報・演題管理・抄録担当の方々には労を尽くして頂きました。また、今回の学会ではモーニングセミナーから始まり、2日間で13の講演企画と、かなり盛り沢山のスケジュールになりました。企画された事務局はもとより、運営にあたって頂いた方々は分刻みの多事多端な思いをなされたことと存じます。お疲れさまでした。

2年間の準備期間を経て、たどり着いた第33回東北理学療法学会でした。大会長の三浦幸一先生を筆頭に結成された準備委員会も、手探りの中、少しでも良いものを作り上げようとして取り組んできました。そして、それにはやはり宮城県理学療法士会会員の皆様の協力があったからこそ実感しております。改めまして感謝の意を表します。ありがとうございました。

会期:平成27年11月28日・29日
会場:仙台市民会館
テーマ:「人を育み、つなぐ未来へ」
大会長:三浦幸一(国立病院機構宮城病院)
参加者:731名
演題数:105題



第33回東北理学療法学会がここ宮城県仙台市で11月28日29日の両日行われました。今大会で当日ボランティアスタッフとして参加頂いた東北薬科大学病院勤務の鈴木紀子さんにインタビューをしてきました。
また今大会で初めてポスター発表にて座長を務められた、東北文化学園大学の鈴木博人さんにもお話を伺ってきました。

東北薬科大学病院

リハビリテーション科 鈴木法子さん

・今回の業務内容は？

今回は講師の先生方や来賓の方々が、いらした際に応接室へ誘導したり、講演までの間にお茶を出したり、ご挨拶したりと接待の業務を行いました。



・東北理学療法学会のボランティアに参加してみてどうでしたか？

今回初めての参加で、さらに接待という仕事で滅多に会う機会のない先生方や来賓の方々とお話しする場面が多く緊張しました。

また学会には参加者としては行ったことがありますが、今回はじめて裏方の仕事を行い、「こういう仕事もあるんだ」と思いました。

・参加してみて大変な事がありましたか？

事前にマニュアルは渡されていたのですが、実際はマニュアルに無い例も多く、その場で判断しなければならず大変でした。

大変な事もありましたが、また機会があればボランティアに参加してみたいです。

東北文化学園大学 医療福祉学部 リハビリテーション学科

理学療法学専攻 鈴木 博人さん

ポスター発表 座長

・今回はじめて座長を経験していかがでしたか？

6年前に開催された仙台での東北学会では、学生としてポスター発表を行っておりました。同じ会場で座長をすることには、感慨深いものがありました。また、今回は自分の研究分野と異なる内容の座長でしたので、異なる研究分野を学ぶ良い機会となりました。

・座長を行うにあたり、何か気をつけられた点がありますか？

以前のポスター発表は演題毎に時間を取って、発表してもらう形式が多かった印象です。しかし、最近では参加者が興味のある演題の発表者と自由に話ができる自由討論形式が多なっています。この形式のメリットは、ディスカッションできる時間が多い点にあると感じています。そのため、参加者が発表者へ質問しやすい雰囲気を作るように座長として心がけました。

また私も事前に抄録を読み、その分野について学び、疑問点があれば演者と討議し、また気づいた点については助言等を行いました。



学会演題登録システムについて

第33回東北理学療法学会
学術局 演題管理部長 鈴木 誠

・今回正式導入されたOCSの概要について

今大会では、学会の発表演題の登録等をサポートするシステム（Open Conference System, OCS「呼称:オー・シー・エス」）を利用致しました。OCSは現在、全国理学療法学会大会や各分科学会学術集会、ブロック学会、県士会学会等、規模の大小様々な大会での演題登録等に利用されております。OCSは主に学会発表を行う演者や演題の内容を審査する査読者が利用する「学会システム」と、主に学会の運営スタッフが利用する「学会管理システム」の大きく二つに区分されます。学会システムでは、演者からの演題情報の登録、演題の査読に関する内容を管理しています。一方、学会管理システムでは演題査読の自動振り分け、学会大会発表時の演題セッションの編成、等を管理しています。OCSはWeb経由でどこからでもアクセス可能であることから大会運営についての効率性・利便性に大変優れています。

・演題検索システムについて

学会大会に関する情報が全てOCSに格納されていることから、Web上での演題検索が容易に可能となりました。本大会期間中は、携帯端末からも演題検索システムを利用でき、迅速に演題や講演要旨などにアクセスすることが可能となりました。

・使用感や今後使用される方への注意点など

大会エントリーに際し、OCSを初めて利用した会員にとっては多少の戸惑いもあったかと思えます（現に、演題登録期間中に会員から問い合わせメールがありました。）。今後もOCSを利用した学会大会が多くなると予想されますので、今大会をきっかけに利用方法に慣れて頂ければと思います。

大会運営スタッフの立場としては、演題管理等に関する作業効率は格段に上昇したと感じています。100を超える演題数を抱える東北理学療法学会大会での運営にとって、OCSはなくてはならないシステムであると思えます。

一般社団法人宮城県理学療法士会 事業管理部からのご報告

平成27年度リハビリテーション専門職定着支援研修会(新任職員研修会)開催報告

平成27年10月24日(土)に宮城県リハビリテーション支援センター主催の平成27年度リハビリテーション専門職定着支援研修会(新任職員研修会)が開催されました。

参加者は27名(職種別: PT:16名 OT:9名 ST:2名)、今年度の新任研修会は1日のみの開催で今年度の新任研修会は1日で開催されました。

午前の部は『保健・医療・福祉制度とリハビリテーション』というテーマで齋藤病院の遠藤伸也先生により講義がなされ、『先輩リハ職の実践』というテーマに沿ってエバーグリーンズミの高橋利幸先生に講義を行って頂きました。

午後からは参加者が持ち寄ったアプローチに困っている事例や他職種との連携に困っている事例をファシリテーターも交えてグループディスカッション形式で検討されました。



遠藤伸也先生による講義の様子



高橋利幸先生による講義の様子

一般社団法人宮城県理学療法士会
事業管理部 櫻井 健太郎

宮城県理学療法士会ニュース NO.2 2016年1月

平成27年度 一般社団法人宮城県理学療法士会 役員

部局		氏名	勤務先	
理事	会長	渡邊 好孝	医療法人松田会	
	副会長（社会・地区担当局担当）	三浦 幸一	国立病院機構宮城病院	
	副会長（事務・財務局担当）	榊 望	仙台リハビリテーション病院	
	副会長（学術局担当）	黒後 裕彦	東北文化学園大学	
	理事	事務局長	藤野 隆喜	東北労災病院
	理事	事務局担当	高橋 利幸	エバーグリーンイズミ
	理事	学術局長	村上 賢一	東北文化学園大学
	理事	社会局長	阿部 功	総合南東北病院
	理事	地区担当局長	坪田 朋子	自宅
	理事	財務局長	新山 正都	大和町たかはし整形外科クリニック
理事	事務局・財務局担当	櫻井健太郎	仙台東脳神経外科病院	
監事	監事	遠藤 伸也	齋藤病院	
	監事	田中 文男	仙台青葉学院短期大学	
	監事	永井 淳一	仙台赤十字病院	
事務局	総務部	総務班（部長）	高橋 利幸	エバーグリーンイズミ
		会員管理班	加藤 佐市	仙台市南部発達相談支援センター
	福利部（部長）		櫻井健太郎	仙台東脳神経外科病院
	広報部	渉外班（部長）	渡邊 広枝	東北労災病院
		広報班	佐々木友也	仙台リハビリテーション病院
財務局	会計部（部長）		古山 智子	仙台医療技術専門学校
	事業管理部（部長）		櫻井健太郎	仙台東脳神経外科病院
学術局	学術大会部（部長）		吉田 忠義	東北文化学園大学
	専門領域 研究部	専門領域研究部（部長）	坂上 尚穂	仙台青葉学院短期大学
		神経理学療法研究班	村上 賢一	東北文化学園大学
		運動器理学療法研究班	武田 涼子	東北文化学園大学
		内部障害理学療法研究班	藤村 伸	東北薬科大学病院
		物理療法研究班	横塚美恵子	東北文化学園大学
		教育理学療法研究班	鈴木 誠	東北文化学園大学
		地域理学療法研究班	横塚美恵子	東北文化学園大学
	生涯学習部（部長）		川上 真吾	東北文化学園大学
	学術誌部（部長）		高橋 一揮	東北文化学園大学
教育部（部長）		小野部 純	東北文化学園大学	

宮城県理学療法士会ニュース NO.2 2016年1月

社会局	健康推進部	健康推進支援班（部長）		菊地 雅行	松田病院
		介護予防推進班		菅野 良	塩竈市立病院
	医療保険部（部長）		金子亮太郎	医療法人松田会	
	介護保険部（部長）		阿部 功	総合南東北病院	
地区 担当局	県南地区		安孫子 洋	総合南東北病院	
	太白名取地区		高島 悠次	宮城厚生協会長町病院	
	青葉泉地区		平山 紀子	地域医療機能推進機構仙台病院	
	宮城野若林地区		高島 悠次	宮城厚生協会長町病院（兼務）	
	大崎栗原地区		鈴木 浩司	大崎市民病院	
	石巻地区		谷 崇史	石巻赤十字病院	
	気仙沼地区		小野寺裕志	気仙沼市立病院	
常設 委員会	災害支援対策委員会		坪田 朋子	自宅	
	地域包括ケア推進委員会		榎 望	仙台リハビリテーション病院	
	組織検討委員会				
	スポーツ医科学推進委員会		大友 篤	仙台青葉学院短期大学	
	各種事業渉外委員会		藤野 隆喜	東北労災病院	
	表彰委員会				
	公益事業推進委員会		高村 元章	東北福祉大学	
	訪問リハ振興委員会		阿部 功	総合南東北病院	
特別 委員会	選挙管理委員会		舟山 伸利	仙台赤十字病院	
			小石川紀男	杜都中央病院	
日本理学療 法士協会	代議員		渡邊 好孝	医療法人松田会	
			黒後 裕彦	東北文化学園大学	
			榎 望	仙台リハビリテーション病院	
			坪田 朋子	自宅	
			辻本 直秀	広南病院	
	東北ブロック	理事		渡邊 好孝	医療法人松田会
				榎 望	仙台リハビリテーション病院
		学術局	学会部	小林 武	東北文化学園大学
			機関紙編集部	芝崎 淳	総合南東北病院
			教育研修部	小野部 純	東北文化学園大学

県士会ニュースおよびホームページへの掲載依頼について

県士会ニュースと県士会ホームページへ掲載を依頼される場合は、広報部広報班までご連絡ください。原稿は、WORDまたはテキスト形式を基本とします。PDFファイルへも対応は可能ですが、適切に印刷(掲示)されない場合があります。また掲載が適切ではないと判断された場合には、ご意向に添いかねることもありますのでご了承ください。

またご不明な点やご希望等ございましたら、下記までご連絡ください。

宮城県理学療法士会 広報部広報班

宛先: 〒981-3341 黒川郡富谷町成田1丁目3-1

仙台リハビリテーション病院 リハビリテーション部 佐々木友也 石山 歩

TEL : 022-351-8118 FAX : 022-346-8496

E-mail: news.edit@pt-miyagi.org

次号県士会ニュース締切: 7月10日まで

発行日: 平成28年1月26日
発行: 宮城県理学療法士会
代表者: 渡邊 好孝
編集: 佐々木友也 石山 歩
印刷: 合同会社P・プロGRESS
〒984-0001 仙台市若林区鶴代町5番20-3号